

地域連携だより

vol. 6

茨城県立中央病院 地域医療連携室
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528
TEL 0296-77-1121
FAX 0296-77-2002
URL:<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/index.html>

春暖の候、貴院におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
地域連携だよりでは、当院の情報をお知らせいたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。



●救急センター Medical Emergency Center のご紹介



救急センタースタッフ

救急センター長

高山 豊



平成23年2月より現在の救急センター棟で救急患者さんの診療を行っております。当センターには、3つの初療室、6つの診察室をはじめ、CT、一般X線撮影装置、内視鏡システムなどを備え、病床としてはICU 6床、救急一般病床8床が稼動しております。また、隣接するヘリポートを使って、ドクターヘリによる搬送も受け入れております。

「救急患者さんは断らない」を原則に、平日日中は救急科医師2～3名が各科の当番医の協力を得て、休日及び夜間は当直医に加え必要時は各科のオンコール医により診療しております。スタッフとしては、救急外来看護師23名、救急救命士1名、ICU看護師21名、救急一般病棟看護師12名が専任で配置されております。平成27年度に当センターで治療した患者数は13,886人、うち救急搬送患者数は4,681人（ドクターヘリ・防災ヘリによる搬送患者21人を含む）でした。

また、平成26年2月からは、ドクターカーの運用を開始し、近隣消防本部からの要請に応じて、医師1～2名、看護師・救急救命士1～2名、運転士1名からなるチームを派遣しています。平成27年度は、心肺停止症例や重症外傷症例などに対して193回出動しました。

当センターでは、救急医、スタッフ、各診療科医師などが「オール茨城県中」の体制で「死角のない救急医療」を目指し、地域の方々からの信頼を得られるよう鋭意努力しておりますので、今後とも宜しく願いいたします。



● 各診療科のご紹介

循環器外科

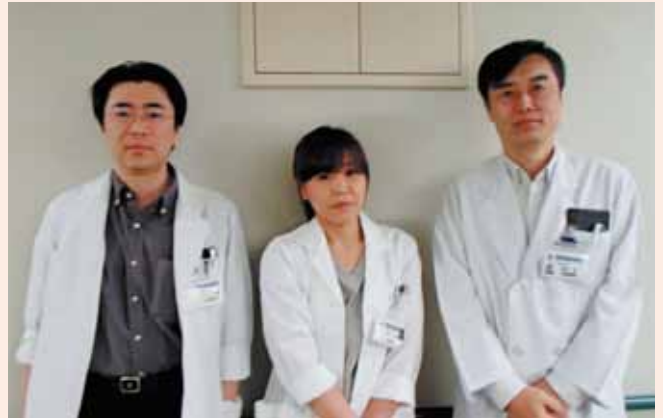
参事兼循環器統括局長

重田 治

日頃、連携医療機関の皆様には、大変お世話になっております。

循環器外科は、循環器センターの一員として、成人の心臓・胸部大血管手術を行っています。循環器センターには医師が常駐しており、ご紹介のあった患者様の初期対応を行っています。当番医が緊急手術の適応、もしくは内科的初期治療では改善が見込めないと判断した場合、循環器外科にコンサルトがあります。平成28年は、74例の心臓大血管手術を行いました。そのうち26例が緊急もしくは臨時手術でした。症例の内訳は、冠動脈バイパスのみの症例22例、弁置換もしくは形成術34例、大血管手術13例、その他3例でした。

心臓が止まりかけている、あるいは脈が触れないという緊急時に、最も強力な生命維持装置が人工心肺です。これを短時間で装着できるようにしたのがPCPS（経皮的な心肺補助）システムで、一時的な急性心不全で、脳血



循環器外科スタッフ

管障害を起こす前に体外循環が始められた場合は良好な予後が期待されます。昨年1年間で12件のPCPS使用症例があり、そのうち6例がシステムから離脱、そのうち3例が転院ないしは生存しています。

当院は基幹教育病院として多くの研修医とともに診療を行っておりますが、現在当科は専門医のみです。心臓血管外科基幹施設での研修を終え専門医となった医師がその専門性を活かして活躍する場として考えておりますので、今後ともよろしくようお願い申し上げます。



皮膚科



皮膚科部長

狩野 俊幸

当院皮膚科は3名の常勤医とともに筑波大学及び自治医大からの非常勤医により日々の診療にあたっています。

皮膚疾患の主要症状である皮疹を、視診・触診に加え、ルーペ、ダーモスコープ、体表エコーなどを用いて詳細にとらえ理論的に分析し、悪性病変が疑われる場合はもとより炎症性疾患に対しても生検を積極的に行い、病理組織像をふまえた正確な診断をつけ、治療に結びつけるよう努力しています。皮膚外科については2名の形成外科常勤医と密接な連携のもと、最適な切除・再建ができるようにしています。悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節加算の施設基準を満たしています。

当科独自の診療機器として、

①スキャナー付炭酸ガスレーザー（メスを使わず縫合し

ない手術に使用）、

②Qスイッチ付アレキサンドライトレーザー（メラニン沈着疾患の治療）、

③パルス幅可変式ロングパルスダイレーザー（血管拡張疾患の治療）

④ナローバンドUVB照射器（乾癬などに対する最新紫外線治療）

などがあります。

他に特筆すべき治療として、ここ数年来乾癬に対して登場した生物学的製剤（TNF- α 阻害剤、IL-12/23阻害剤、IL-17A阻害剤、IL-17レセプター阻害剤）があります。従来は治療困難であった関節症性乾癬、膿疱性乾癬、重症乾癬患者に対して、有効性を維持しながら安全に治療を行うことが可能となりつつあります。当院は「日本皮膚科学会による生物学的製剤承認施設」となっており、既に20件を超える実績があります。

その他、通常の治療に反応しにくいざ瘡に対して、学会ガイドラインでも推奨されているグリコール酸によるケミカルピーリングを導入しています。

※年に3回、近隣の先生方からご紹介を頂いた患者さんについての臨床病理組織検討会を開催しておりますので、



興味のある先生方はぜひお問い合わせ下さい。